



木戸池温泉物語

project

これが、志賀高原パイオニア当館初代主人小林信義

志賀高原開拓プロジェクト！！

木戸池温泉物語

昭和の初め、志賀高原には草津街道と呼ばれる街道が長野から群馬草津へとつながり、今の発湯や熊の湯にしか宿が無い状況で、志賀高原の開拓は無謀と考えられていました。信義は、志賀高原の自然が将来もっている可能性を熱く語り、木戸池の畔に『ヒュッテ』建築計画を志賀高原の自治組織に提案し、承認されました。そして、『志賀ヒュッテ』が建設されました。木戸池温泉ホテルは、志賀高原のパイオニアとも呼ばれる当館初代主人・小林信義が80余年前に、草津街道の山にあった場所で始めました。ここを1人で開拓して、宿を建てて温泉を掘り起こし、ボート乗り場を作り、ワカサギ養殖とワカサギ釣りのレクリエーションの場を興しました。また、横手山渋峠にスキー場を開いたのも彼の功績でした。そして、今、志賀高原は冬のスキーレジャーの代名詞となり、グリーンシーズンのトレッキングや合宿の聖地にもなっております。



[PDFはこちら](#) ▼

飲料水が無い！！飲料水を求めて、

信義の開拓は進む

飲料水を求め、遠く硯川の水源地から木やトタンの水溝を自力で引いて作り続け、その距離は、3,272メートルにも達しました。



志賀ヒュッテ

昭和の初め、当館初代主人が草津街道を旅人たちの宿泊施設として、『志賀ヒュッテ』として創業しましたが、旅人たちはさらに奥手にある熊の湯温泉へと通り過ぎていきました。その状況を打破する為に、主人が、戦中～戦後、幾度となく掘削した結果、2つの源泉を掘り当てた逸話がある温泉、それが、木戸池温泉です。



ビジョンを活かした
観光産業を！！

お得な宿泊プラン
詳細はこちら

泉探しを継続していた信義は、その間、つぎのプロジェクトとして、十数隻のボートを購入して、木戸池に浮かべ、今の木戸池貸しボート、木戸池でのワカサギ釣りレジャーを見込んで、諏訪湖から五十万粒のワカサギの卵を木戸池に放流、養殖を始めました。



[日帰り・キャンプ](#) | [源泉かけ流しの温泉](#) | [料理](#) | [館内施設](#) | [志賀高原の楽しみ方](#) | [団体・グループ](#) | [アクセス](#) | [お問い合わせ](#) | [木戸池温泉物語](#)

上信越高原国立公園・志賀高原
木戸池温泉ホテル
LAKE KIDOIKE

〒381-0401
長野県下高井郡山ノ内町志賀高原本戸池
TEL:0269-34-2821 FAX:0269-34-2889
チェックイン: 15:00～ チェックアウト: ～10:00
©2018 Liberty. All Rights Reserved.